キゴ山ブックレットNo.2

キゴ山の戸室石

（と　むろ　いし）

見て、ふれて、400年前にタイムスリップ!!

戸室石切丁場（キゴ山西丁場）の戸室石

銀河の里キゴ山
（キゴ山ふれあい研修センター）

（山折り）

戸室石の刻印をさがそう!!

石切丁場の戸室石には、金沢城と同じように印が刻まれています。金沢城とキゴ山へ行って刻印（こくいん）をさがしてみませんか?あなたはいくつ見つけられるでしょうか?
ぜひ400年前の石工職人の息づかいを感じてみてください。

キゴ山ブックレットNo.2　キゴ山の戸室石
発　行　　平成31年（2019年）3月
金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課
キゴ山ふれあい研修センター
金沢市平等本町カ13番地1
TEL076-229-1141　FAX076-229-2511

このブックレットの作成には、石川県金沢城調査研究所に協力していただきました。金沢城と戸室石についてもっと知りたい人は、研究所が編集した「よみがえる金沢城1･2」という本を読んでみてください。

（谷折り）

キゴ山の戸室石マップ

この戸室石は、石切丁場から運び出されたものです。

このマップでは、キゴ山の散策コースの近くにある石切丁場を紹介しています。
この他にも、キゴ山には、とてもたくさんの石切丁場が残っています。

● 戸室石の博物館
キゴ山の石切丁場には、地中から掘り出した戸室石の原石や加工中の石、仕上げが終わって運び出す直前の石などが、400年前の姿でそのまま残っています。石切丁場跡を見ると、当時の石工たちの作業風景を想像することができます。戸室石の石切丁場をこんな真近に見ることができる場所は他のどこにもありません。キゴ山はまさに「戸室石の博物館」なのです。

● 石切丁場を大切にしよう
戸室石の石切丁場は、たいへん貴重な文化財です。キゴ山の石切丁場の戸室石を傷つけること、壊すこと、移動すること、掘り出すことなどは禁止されています。石切丁場を大切にしましょう。

（谷折り）

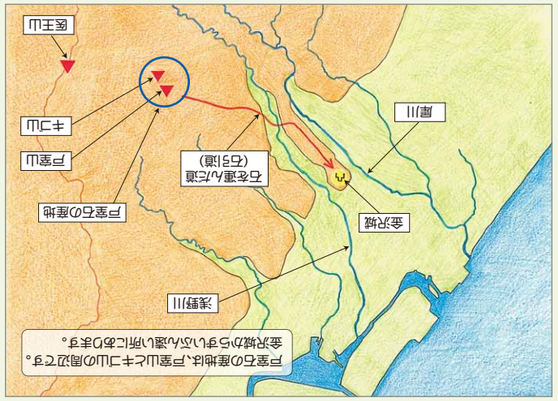
（山折り）

戸室石とんなん？

● 戸室石は火山でできた？！

今から約40万年前、戸室山やキゴ山などの火山活動によって地表に噴き出した溶岩が冷えて固まり、安山岩（あんざんがん）というかたいものができました。
これを「戸室石」といいます。今でも戸室山やキゴ山の周辺で見つけることができます。
戸室石の内、地下の浅い所で固まった赤っぽいものを「赤戸室」、地下の深い所でゆっくりと固まった硬めのものを「青戸室」といいます。

● 戸室石の産地は山の中



戸室石の産地（戸室山とキゴ山）

金沢城と戸室石

● 金沢城に戸室石！？

金沢城の石垣には、戸室山やキゴ山の周辺で切り出された戸室石が、とてもたくさん使われています。

金沢城二ノ丸菱櫓・五十間長屋

金沢城百間堀跡の付近

● 石垣の刻印を見に行こう！！

金沢城の石垣には様々な形の印が刻まれています。これを刻印（こくいん）といいます。この印は、戸室石を切り出したのがどこの集団かわかるように刻まれたものです。

金沢城極楽橋下の石垣

（山折り）

石切丁場

● 戸室石とどから来た？

戸室石を切り出す作業場のことを「戸室石切丁場（とむろいしきりば）」といいます。
戸室石切丁場は、戸室山とキゴ山の周辺を含む東西3.5km、南北3km、面積660haの広い範囲にあるすべての石切丁場のことをいいます。

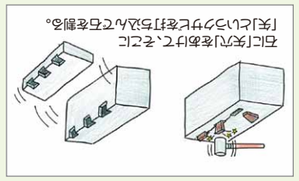
● すべて手作業で！！

石切丁場では、原石を地中から掘り出すだけではなく、石を割ったり、削ったり、様々な作業を行っていました。

① 原石を地中から掘り出す

② 「矢」を打ち込んで石を割る

③ 仕上げをして、刻印を入れる



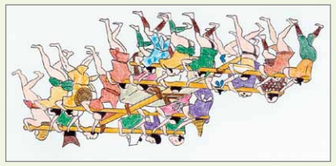
石の割り方

（谷折り）

石切丁場から金沢城へ

● 人の手で石を運ぶ？！

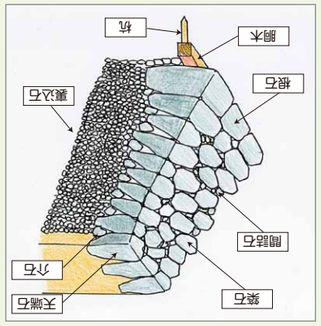
加工が終った戸室石は、「石引道」と呼ばれる約11kmもの長い道のりをとえて、金沢城へと運ばれました。
この時、木縄かに石をくくりつけ、かんなでかつぐ「石釣り」という方法で石を運びました。小さい石は4～8人で、大きい石は24～36人で、2日～5日ほどで運びました。
金沢市の「石引」という地名は、戸室石を山から城へ運んだ道筋にあったのでついたものです。



石の運び方（石釣り）

● 戸室石を積み上げて…

金沢城へ運ばれた石をくさんの戸室石で石垣を作りました。
金沢城では、石垣の石を積むための専門技術を持つ「穴太（あのう）」と呼ばれる石工職人の集団が石垣を積みました。金沢城は様々な積み方をした石垣が残っている「石垣の博物館」なのです。



石垣の積み方の例（石垣の断面図）